RADIO PROGRAM presented by α-Station×京大

KYOTO UNIVERSITY ACADEMIC TALK

89.4MHz

WHAT'S "KYOTO UNIVERSITY ACADEMIC TALK" ?

エフエム京都（α-Station）89.4MHz
SUNNYSIDE BALCONY（月～金　11:00～16:00）内　"Kyoto University Academic Talk"（水　15:15頃～）

HP　http://fm-kyoto.jp/
過去の放送　https://www.facebook.com/KyodaiAlumni
リクエスト　su@fm-kyoto.jp

ラジオ受信機をお持ちでないときは……
radiko.jp（PC・スマートフォン対応）にて聴取可能です。

京都のFMラジオ局α-Stationと京大の研究の知られざる関係

京大と聞いて何を思い浮かべるだろうか。クスノキや時計台、もちろんそれらも京大のシンボルではあるが、何を取ってもまずはその研究だろう。その京大の最高峰の研究を発信するラジオ番組のワンコーナーがある。その名も "Kyoto University Academic Talk"。放送するのはα-Station（89.4MHz）、四条烏丸にある地域密着型のFMラジオ局だ。今回、我々は最先端研究発信の現場に潜入した。コーナーの裏側にある、制作者たちの数多の努力に迫る。（夷＆とろわ）

幅広い層を対象にα波を発信する

α-Stationのαには、脳のα波という意味が含まれている。「α波、つまり心地良さを感じる音楽を発信していこうというコンセプトでやっています」と語るのは三宅編成部長。実際、α-Stationでは幅広い年代層に受けるような多様な番組を放送している。朝から晩までどの番組でも「ディレクターが命を懸けて選曲している」ので、必ずお気に入りの番組を見つけることができるはずだ。

そうは言っても、ラジオを普段から聴いているという方はあまり多くないというのが現状だろう。そもそもラジオを持っていない人も増えている。しかし、三宅編成部長は「最近は目をメインに情報を得ることが多くなっていると思うけれど、耳をしっかり使うというのも必要なんだと思います。想像力を鍛えることになるんです」と分析されている。最近では、パソコンやスマートフォンで気軽にラジオをストリーミングで聴けるradikoというサービスも盛んなので、ぜひ一度聴いてみてもらいたい。

そこで、おすすめの番組を三宅編成部長に伺ってみた。まず、土曜日夕方のJ-POPカウントダウン番組は超人気だ。また、平日朝と夜には、DJが世の中のできごとに面白おかしくかつ鋭く知的に切り込む番組が放送されている。そして、我々京大生に限らず、すべての人々に自信を持って薦められるのが、"Kyoto University Academic Talk" である。

編成部長　三宅康教
α-Station全体の一週間の番組表や放送計画を統括している。

地域住民にも研究に親しんでもらえるように

"Kyoto University Academic Talk" は、毎週水曜日の15時過ぎに京大から推薦された研究者が出演し、DJと対話する形式で自身の研究内容について紹介するコーナーである。平日11～16時にかけて放送されている "SUNNYSIDE BALCONY" という番組のワンコーナーとして、２年前の2011年11月から放送を開始した。

京大では、放送を開始する以前から、知的活動を積極的に情報発信することが重要だと考え、新たな機会を探っていた。そのとき、京大の研究者がラジオに出演し対話をするという企画をα-Stationが提案した。「我々の方も京大さんと地域住民との間を取り持つ媒体でありたいと思いました」と三宅編成部長は振り返る。こうして "Kyoto University Academic Talk" の開始に至ったのである。

最先端の研究をリスナーの耳元に届ける

ラジオという音声のみのメディアで第一線の研究を発信するというのは、新しい試みであるように思われる。その意義は何だろう。京都大学渉外部担当者によると「音声だけで構成されている分、情報量は少ないかもしれませんが、従来の広報誌などとは異なる方々にダイレクトに届けることができるのではないかと考えました」とのこと。地域住民に情報を直接発信できるのはFMラジオならではの強みだろう。

ディレクター　津崎恵理
"Kyoto University Academic Talk" の総監督的な立場を務める。

また、対話形式を取っていることにも大きな意味がある。「専門用語ばかりに頼ることがないため、大学の研究がとても魅力的で実は身近であることを伝えることができるのではないかと思っています」と担当者は言う。リスナーたる地域住民が、研究内容に触れられるきっかけとなるのである。

こうした工夫のかいあって、2011年の放送開始以来、「わかりやすい」「京大の先生を親しみやすく感じた」などの感想が届いており、好評を博している。

より面白いテーマをよりわかりやすく

α-Stationでは平日朝７時から深夜24時までのすべての番組を生放送で届けている。"Kyoto University Academic Talk" も例外ではない。しかし、その裏では綿密な打ち合わせがなされている。それを引き受けるのが津崎ディレクターだ。「まず私が、渉外部さんからその週の先生についての資料を前もっていただいて、それを基に台本を作るんです。そのためにはこっちもある程度下調べをしないと」

研究という専門的になりがちなトークテーマに、津崎ディレクターが絶妙なアレンジを加えていく。「ラジオって、本とは違って情報が通り過ぎていくメディアですから。極力わかりやすく、リスナーがへぇーって思えるような話題を探しますね。全然なじみがないと思っていたような研究でも、私たちに何かしらのつながりがあったりするんです。それと、研究のきっかけとか魅力とか、根源的なところも聞きたいですね」

DJ　福岡千幸
"SUNNYSIDE BALCONY" の水曜日担当のDJ。

さて、本番では聞き手であるDJ福岡千幸さんが先生からお話を引き出していく。さぞ大変なのだろうと思ったが、予想に反してそうでもないらしい。「先生方はやはりお話が上手なんです。私は下調べをしていない状態で、リスナーさん目線でインタビューしています」と笑う。また、福岡さん自身も楽しんで毎週担当しているようで、「いろんな先生と出会えるのが楽しみですね。何でも食いついちゃうタイプなので、『そんな研究があるんですか！』っていつも興味津々でお話を伺っています」とのことだ。

また、生放送には脱線も付きものだが、それこそが生放送の醍醐味ともなっている。「収録なら後からカットできますけど、限られた時間の中でやるからこその面白みもある。台本にない何かが生まれることもありますし」――そう津崎ディレクターは語る。

外部だからこその強みを活かして

京大の先生の話を京大生がα-Stationで聴く意義はどこにあるか伺ってみた。津崎ディレクターによれば、「京大の外の人間である私たちだからこそ質問できるようなこともあります。そこが強みでもありますよね」とのことだ。一般向けだからこその発見があるのである。

ラジオと大学という一見珍しい組み合わせだからこそ、三宅編成部長は、コーナーを継続していきたいそうだ。「今後もα-Stationと京大さんとで協力をしていきたいと思っています」

京大生に意外と知られていないこのコーナー、ぜひ一度聴いてみてほしい。

はみだしすてーじ
デジタルでもディジタル（JIS）でもどっちでもいいよ
⇒『壊れかけのRadio』って名曲があるじゃないですか
（工・４　五月病）
（あれはラジオではなくレディオなのです；編）

はみだしすてーじ
右下の「（～；編）」って、「～編」の編だと思ってました。
⇒何事も裏には編集側の努力があるんです。
（理・３　三重結合）
（ラジオも『らいふすてーじ』も；編）